

進路ニュース

令和6年11月5日発行

スピードと正確性

I. 進路指導主事より

毎年、11月になると、推薦入試受験者への小論文や面接の指導が本格的になり、いよいよ入試本番を迎えたという感じがします。それと同時に秋という季節を、ようやく実感できるようになります。

皆さんの秋は、どんな季節でしょうか。一般的には、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋と呼ばれ、多くの分野で活動が盛んになる時期です。寒い冬の前で気力が充実しているこの時期に、できるだけ多くの事をやり終えましょう。生徒の皆さんは、4月当初に各自の目標を設定し、1年間頑張ろうと誓ったと思います。是非、ここまでの自分の行いを振り返り、再評価をして、掲げた目標に到達できるようにしてください。1年は、あっという間に過ぎてしまいます。年度末の3月になって計画の見直しをしていたのでは、取り返しのつかない事態になります。毎年同じ過ちを繰り返している人こそ、行動してください。残り2回の定期考査で、少しでも成績を向上させることも忘れないでください。

受験を控えた3年生は、毎週のように模試を受験しています。具体的に言うと、10月は、5日河合塾記述、12日進研記述、19日河合塾共テ、26日大学別模試（旧帝大対策の希望制）。11月は、2日進研共テ、16・17日河合塾共テです。通常、1月下旬から2月上旬の私大入試は、ほぼ毎日のように入試がありますから、週1回ならば、特に何も問題ありません。テスト毎に自己採点と見直しを繰り返してください。

そこで、先日、模試の監督をしていて、気づいたことがあります。テスト終了後、何人かの生徒が言い訳のように、「あー、終わらなかった」「時間が足りなかった」と言っていました。この言葉が出てしまった生徒は、そのテストを100点満点ではなく、90点とか、最悪の場合80点満点で受けていることになります。明らかなスピード不足です。本来、知識や思考で勝負すべきところを、いくつかの問題にたどり着かず、知識や思考を使うことなく、勝負に負けてしまっています。「時間をかければ、解けていた」というのは、言い訳でしかありません。

入試に求められている能力は、知識や思考以外に、『スピードと正確性』です。「いかに早く問題文を読んで理解し、正しい答えを導き出せるか」です。これは、一般的に社会に出て、仕事をする時に求められている能力と言ってもいいと思います。与えられた課題に対し、速やかに、正確に、間違いなくやり終えることが、良しとされます。

『スピードと正確性』は、鍛えれば向上します。時間を設定して、その時間内に問題を解くことを繰り返すことで、解答スピードが格段に速くなります。最初は、焦ったり、戸惑ったりすることもあるので、上手くいきませんが、だんだんと慣れてくると思います。

9月の進路ニュースで、『字を丁寧に書く』という話をさせていただきましたが、そのことも含めて、テストに臨んでください。1・2年生の時から気を付けていれば、3年生になって慌てることはありません。

II. 企業に求められる能力

現在、コロナ禍で停滞した大学生の就職状況は、回復傾向にあり、コロナ前まで戻りつつある。

リクルート就職みらい研究所の「就職白書 2024」によると、就職先が確定している学生のうち、「当初からの第1志望群」に入社予定の学生は64.0%で、前年(61.5%)から2.5ポイント増加しており、聴取を開始した2015年卒以降の最高値を更新している。

また、大学生の有効求人倍率は、1.71倍であり、コロナ前の水準に戻っていることも踏まえると、2024年卒の就職先の選択権は、概ね学生側にあったことが分かる。しかし、この大卒求人倍率において、従業員5,000人以上の企業の倍率に限ると0.41倍となり、大手企業については、就職希望者総数が求人総数を大きく上回っており、当初の希望通りに内定を取得できたわけではないことが伺える。

では、採用する側の企業は、どのような人材を求めているのだろうか。2024年卒の採用数の計画に対する2023年12月時点での充足状況は、「計画通り」「計画より若干多い」「計画よりかなり多い」を合わせた採用数充足企業の割合が36.1%と、前年(40.4%)から4.3ポイント減少した。前年に続き調査を開始した2012年卒以来の最低値を更新し、厳しい状況が続いている。この主な理由を聞いたところ、「選考応募者が予定より少なかった」が66.2%と最も高く、次いで「内定辞退が予定より多かった」が43.4%であった。これは、少数の優秀な学生が多くの内定を得たことを推察すると、少子高齢化の深刻化による現役人口の急減が、主な原因であることを示している。

そして、採用担当者を対象に実施したマイナビの「2024年卒企業新卒採用活動調査」によると、「前年よりも採用したいと思う学生が少ない」と感じている企業が2年連続で増加しており、この点も充足状況の低下に影響を与えていると考えられる。

さらに、同調査で面接時に特に注視するところを聞いた結果が以下の表である。最も多かったのが、「コミュニケーション能力」で、以降は、「明るさ・笑顔・人当たりの良さ」「入社したいという熱意」「職場の雰囲気合うか」となっている。私が考えるコミュニケーション能力とは、『場の雰囲気を感じ取って適切な言葉で会話する力』であり、企業が第一に求めているのは「企業・社会の一員として周囲とのコミュニケーションをとることができる人材」である。

本校の3年生の中には、すでに総合型選抜で第一志望に合格した生徒がいます。そのような生徒に対して、私が面接や志望理由書で指導したことは、「自分自身をきちんとアピールすること」「言葉を飾らず嘘をつかないこと」「話に一貫性があること」「具体的な内容を示し、相手に分かりやすく伝えること」です。これから、学校推薦型選抜を受験する生徒は、以上のことを参考にして頑張ってください！

面接時に特に注視するところ(重要度の高いものから3つまで選択)	24年卒全体	23年卒全体
回答数	2,657	2,801
自己紹介・自己PRの内容	11.3%	11.1%
企業・業界理解の深さ	9.6%	9.3%
技術的・専門的な知識	2.7%	3.5%
大学で学んでいることをきちんと説明できるか	4.3%	3.9%
入社したいという熱意	37.3%	43.7%
臨機応変に対応できるか	6.5%	6.8%
職場の雰囲気に合うか	36.8%	33.1%
明るさ・笑顔・人当たりの良さ	39.3%	43.0%
言葉遣い・態度	8.8%	9.0%
個性的な人材かどうか	0.7%	0.8%
素直さや伸びしろ等の成長可能性	25.7%	26.2%
様々な能力のバランスの良さ	5.5%	5.9%
1つのことを極められること	0.5%	0.4%
まじめさ・誠実さ	18.0%	17.2%
地頭の良さ	5.4%	7.0%
ストレス耐性	11.3%	10.3%
身だしなみ、清潔感	6.7%	6.9%
コミュニケーション能力	50.6%	46.5%
協調性	15.2%	11.5%